

漁況予報 いわし

第156号

2009年11～12月漁期
(2009年11月13日発行)

＝ 予 報 ＝

＝ 概 況 ＝

【まいわし】

主要定置網におけるマイワシ総漁獲量は、9月が9.5トン、10月が9.3トン（速報値）で、好漁であった前年（9月：328.2トン、10月：105.8トン）および平年（9月：118.7トン、10月：62.8トン）を大幅に下回りました。

魚体は、13～16cmの小羽～中羽マイワシ（2009年級・0歳魚）が主体で、18～19cmの大羽マイワシ（2008年級・1歳魚）も散発的に入網しました。

佐島地区のまき網は、9・10月ともまとまった漁獲はありませんでした。

これまでお知らせしてきたとおり、今年は紀伊半島以東の春季のマシラスの漁獲状況が低調であり、本県沿岸における夏季以降の0歳魚の来遊も低調に推移しています。このことから、2009年級群の資源は低水準と推測され、今後の来遊もあまり期待できないでしょう。

一方、大羽サイズに成長している2008年級群は豊度が高く、今後も散発的に漁獲されることが考えられますが、その時期や量の予測は困難でしょう。

【かたくちいわし】

主要定置網におけるカタクチイワシ総漁獲量は、9月が4.7トン、10月が1.7トン（速報値）で、不漁だった前年（9月：21.6トン、10月：6.8トン）および平年（9月：169.5トン、10月：82.8トン）を大幅に下回りました。

魚体は、6～8cmの未成魚が主体で、10～13cmの小型～大型成魚も混獲されました。

佐島地区のまき網は、9、10月とも餌イワシとしての漁獲が継続しましたが、徐々にまとまった漁獲が認められなくなりました。

【しらす】

相模湾のシラス船びき網による9、10月のシラス漁獲量（標本船データより推定）は全域で好漁で、不漁だった前年の3.7倍、平年値の2.4倍と好調に推移しました。10月中旬以降、1日当たりの漁獲量は徐々に減少していますが、湾内に来遊したエチゼンクラゲの影響も比較的少なく、継続した漁獲が認められています。

通常、夏季以降に相模湾で漁獲されるカタクチシラスは、湾内で発生していると言われています。しかし今年は湾内のカタクチイワシ卵の分布量が低調に推移しており、9～10月の採集量も平均1.3粒／曳網と、前年（14.3粒／曳網）および平年（32.9粒／曳網）を大きく下回りました。このことから、湾外からシラスが加入している可能性も考えられますが、詳細は今のところ不明です。

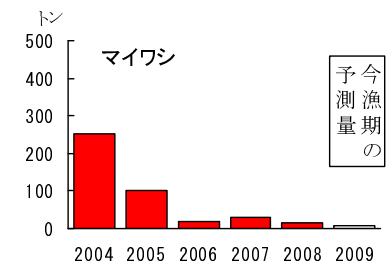
【まいわし】

今漁期は、今年生まれの中羽マイワシが漁獲の主体となるでしょう。

今漁期の漁獲量は、9～10月の県内主要定置網における漁獲量から、約7トンと予測されます。

*縦軸：主要定置網+まき網

過去5年の11・12月漁期の漁獲量と今漁期の予測量

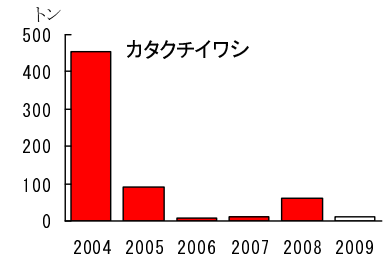


【かたくちいわし】

今漁期は、未成魚が漁獲の主体となるでしょう。

今漁期の漁獲量は、9～10月の県内主要定置網における漁獲量から、約12トンと予測されます。

*縦軸：主要定置網+まき網



【しらす】

今漁期は、9～10月生まれのカタクチシラスが漁獲の主体となるでしょう。

今漁期の漁獲量は、10月の漁獲量から約60トンと予測されます。

